

西の菜時記

平成27年9月30日発行
第38号

発行元：山口市菜香亭
指定管理者
特定非営利活動法人
歴史の町山口を甦らせる会

特集：毛利元昭ゆかりの地をめぐる

◆山口市菜香亭：〒753-0091 山口市天花1丁目2番7号 TEL:083-934-3312 FAX:083-934-3360◆

その後2日連日宴会がありました。活気にあふれる厨房や忙しく動き回る仲居さん、人力車で駆けつける芸者さんたちがイメージとして浮かんできます。
菜香亭と最も長くご縁があったのは、毛利敬親の孫元昭公です。
昭和13年の防長新聞には、毛利元昭公が来山の際、菜香亭へ立ち寄り、時には本邸（防府毛利邸）まで出張板前をしたりした。「菜香亭は美味い」と元昭公から絶対の信用をうけていたとあります。
毛利家御用達の店として代々誇りをもち、その看板に恥じないよう研鑽をつんだ菜香亭主人たちのもてなしを紹介しました。



毛利元昭公のための有田焼の殿様専用食器 展示中

その後の企画展（9月2日～11月8日）は、幕末の長州藩主毛利敬親からひ孫の元道までの歴代毛利家当主と料理菜香亭との関わりと、あわせて井上馨をはじめ元勲や皇室の方々がいづれ来山され、菜香亭がどのように使われたのか、様々なエピソードを紹介しました。
明治39年10月22日毛利元徳の銅像除幕式が催されました。そのとき出席したのは、は毛利家諸公に、井上馨、野村靖、杉孫七郎、井上勝、野村素介、それから「花燃ゆ」で有名になった榎取素彦らです。
除幕式の後、菜香亭で毛利家が参列者を招いて丁寧な宴席がありました。



明治33年毛利家一族の銅像除幕式に参列したときの、伊藤博文、井上馨、杉孫七郎、野村靖（前列左から）（山口県文書館所蔵）

毛利家と菜香亭と山口の迎賓館

今回の企画展（9月2日～11月8日）は、幕末の長州藩主毛利敬親からひ孫の元道までの歴代毛利家当主と料理菜香亭との関わりと、あわせて井上馨をはじめ元勲や皇室の方々がいづれ来山され、菜香亭がどのように使われたのか、様々なエピソードを紹介しました。

NHK大河ドラマ「花燃ゆ」では、長州藩主世子毛利元徳と銀姫のあいだで産まれた子・興丸が登場しています。（15歳で元服し、元昭と改名しました。）主人公杉文が養育係として世話を焼いていることをご存知の方も多いと思います。
興丸は元治2年（1865）2月7日に萩で生まれました。翌年11月13日、藩庁が萩より山口に移ったことに伴い、母銀姫と山口に移住しました。



昭和2年萩で。62歳の毛利元昭（山口県文書館所蔵）

興丸が幼少期を過ごした館 五十鈴御殿

興丸が1歳9ヶ月から、5歳3ヶ月まで、3年半ものあいだを暮らしたのが、五十鈴（いすず）御殿というところ。五十鈴川のたもとにあることからそう呼ばれていました。



中央の軒のところが五十鈴御殿の門と推測されている。

五十鈴御殿は、山口大神宮の宮司の家であったのを、毛利元徳夫妻の館として整備されなおされたものです。
道沿いにある門が当時のものではないかと推測されていますが、それ以外は何も残っていません。
五十鈴御殿は、残された平面図を見るとかなり大きかったようです。また道の向かい側には、五十鈴御殿のための役人の建物が並んでいました。

◆菜香亭市民ギャラリー出展作品紹介・予定表◆

<市民ギャラリー出展作品の紹介>

第2回 ふたりっこ制作展 in 山口
—向田秀敏・向田美保— 7/23～7/26



あざみの会水彩画
—あざみの会（どうもんカルチャーセンター）— 8/26～8/31



出展ご希望の方は、
2ヶ月前までにお申し出ください。

※ご利用について内面に詳しく掲載しています。

（お問い合わせ）
TEL：083-934-3312
FAX：083-934-3360

やまぐち陶芸同好会の習作展
—やまぐち陶芸同好会— 9/26～9/27



これからの展示予定！
10月

見に来てね！
11月

「おいでませ…香りの花作品展」
山根道子さんによる香りつきの石鹼粘土で作った作品を約50点展示します
10月23日（金）～25日（日）
9時から17時まで
（初日のみ 10時～）
（最終日のみ 15時まで）

水彩画同好会「香山」作品展
～山口のまちと自然～
水彩画同好会「香山」のみなさんによる作品を約25点展示します
11月12日（木）～15日（日）
10時から17時まで
（初日のみ 10時～）
（最終日のみ 15時まで）

仲秋に想う

菜香亭初代館長 福田礼輔

仲秋となって菜香亭の庭木の一部にも、また近くの山口大神宮を囲む樹林にも少し色づいてきたこずえを見るようになる。

菜香亭の亭名を揮毫した井上馨の筆力には力強さを感じさせる。

幕末に長州ファイブのリーダーとして、伊藤博文たちと英国へ留学した井上馨の没後百年祭が先日井上の銅像が建つ湯田温泉の井上公園で行われた。この日は井上馨の分骨がある山口市の洞春寺でも井上家による百回忌の法要があり、同夜は馨が命名した当菜香亭でも井上馨を偲ぶ会が行われた。

東京から出席された直系の井上光順さんは祭典や偲ぶ会を通じて「この度の法要を通じて井上馨を正當に評価していただきたい」と語った。

馨は明治維新以後政府の要職に就き、近代日本の政界のひとりとして近代日本の発展に寄与している。

長州閥政財界のウラ舞台ともいえる菜香亭に残る秘話と副題のある朝日新聞山口支局編「菜香亭紳士録」には次の記述もある。当時のおごうさん齊藤清子さんの談話の一部である。」

“以前は面白かったね。県会議員たちみんな今よりも一回りも二回りも大きかったような気がする。人間が大きいんじゃないしに、体そのものも大きかった。吉井さんにしても滝口さんにしても立派な体格でしたよ。おおらかやし仲もよかった。共産党でも山本利平さんは吉井さんとも仲良かったもん”

明治、大正、昭和へと伊藤博文、山県有朋をはじめ菜香亭を直接利用した政財界人の書が菜香亭に存在し歴史の重さを感じる

